

令和2年度事業報告

令和2年度は、介護福祉学科の学生募集が留学生の入学によりかなり良かった。留学生には留学生特有の難しさ（保証人、アルバイト、入管手続等の問題）があるが、教育支援推進室長を中心に取り組み、問題点をつぶしているところである。

一方大川学園高等学校・大川学園高等専修学校はここ数年順調に推移しており、このまま継続できるように努力工夫していくことが重要である。

収益事業としての第一校舎跡地の貸し駐車場も、わずかではあるが、経営上は貢献している。

事業報告の詳細については、下記の通りとなる。

1. 法人本部

事業計画における目標として「経営基盤強化」を掲げたが、決算書に表れているとおりに経営的には良くなりつつある。今後さらにこの傾向を継続するようにしたい。

令和2年度事業報告として

- ① コロナ対策として、(まだ不十分ではあるが)遠隔授業等に取り組み、またその前提としてのネットワーク対策(無線LANの整備、スピードアップ等)を行った。
- ② コロナのため研修は行えなかったが、職員の業務範囲の拡大を目指し、事務職員にバス運行のため中型運転免許を取得させた。
- ③ IT教育の活用として、専門および高校における電子黒板の活用の活発化、タブレットの活用、パソコン教育を行った。
- ④ 教育支援推進室にて、留学生対策として日本語教育のため日本語教師を4人にし、また施設の斡旋等を行った。
- ⑤ 広報室、教育支援推進室、施設・情報管理室と連携して広報活動、ホームページの管理等を推進した。

2. 大川学園高等学校・大川学園高等専修学校

重点目標「保護者の期待に応える学校づくり、生徒の『伸びしろ』が大きい学校づくり」を実現し、より多くの入学生確保につなげたいと考え、以下のように事業(新規◎継続○)を実施したので、主なものを報告する。

- ① どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、学力を着実につける。

コロナ禍の休校措置等に対し、教育課程の再編成やオンデマンド授業の配信で学びの保障を行った。また引き続き「学び直し」をキーワードにした教育を継続し、授業満足度86.4%(全生徒への授業アンケート)となった。なお2年生修学旅行は中止とした。

- ◎金曜日の放課後に英語特別講座「ナナゼミ」の創設(年間12回)

土曜日実施の英語特別講座「サタゼミ」に比べ参加者少なく、また指導時間1時間かつ実施回数も少なかった。令和3年度は「ナナゼミ」を「サタゼミ」（指導時間2時間）に発展的統合することとした。

◎英語検定準1級合格（3年普通科生徒）

◎関東地区高校生福祉教育研究会へ私学代表として参加（リモート発表）

◎若手教員の公開授業（年1～2回）、授業づくり研修会（5回程度）

○「ステップアップ講座(国1、数3、英2)」(6月から年間14回)

本部長・全教員（非常勤講師含む）ほか外部講師4名（臨時ボランティア講師含む）で指導。途中で不参加となる生徒の減少対策が課題である。

○校長による「ゼロゼミ」（年間18回）

○飯能プランニングコンテスト優秀賞2グループ（SDM受講生徒）

② 深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現をはかるとともに人格の完成を目指す。

全体として落ち着いた学校生活を送ることができている。遅刻者数が減少すると共に生徒指導案件（県報告3件）も減少した。またコロナ禍で進路環境の変化があったが、進学68%就職等32%（1名浪人含む）で進路決定100%を実現できた。進学先で最も多かったのが大川学園医療福祉専門学校への内部進学者14名であった。3年生の進路満足度（アンケート）は89.2%であった。

◎2年連続で日本社会事業大に合格者

○全クラス担任の道徳授業実施（年1～2回）

本校への道徳教育導入から3年目、着実に「道徳」が根付き始めている。

③ 地域等と連携し、開かれた学校づくりを進めるとともに安定した生徒募集を実現する。

○多くの大会が中止される中、部活動では男子テニス県優勝、軟式野球部県準優勝・関東大会準決勝進出が顕著な結果である。

◎コロナ禍でボランティア活動が制限されたが、地域自主防災会に参加するなど、新たな展開があった。

○駿河台大学との連携継続があり、体育授業・体育祭にボランティア、マラソン大会に多くの学生の協力をいただいた。

3. 大川学園医療福祉専門学校

令和2年度も「地域における医療・介護に携わる一員として活躍できる人材育成」を理念に掲げ、学生指導、学生募集活動、附帯教育活動等に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言もあり、入学式や学園祭の中止等予定していた学校行事に影響が及んだ。令和2年度国家試験の現役合格率は柔道整復師75%、介護福祉士71%であった。就職率は両学科とも100%と就職指導の効果もあり、卒業生全員の就職先が決定した。また、令和元年度より受け入れた介護福祉学科の留学生10名が初めて卒業し介護施設に就職した。学生指導等の報告は以下の通りである。

① 学生指導

学校全体として新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組み、登校時の検温・消毒・健康観察表記入等を実施した。国家試験対策として、両学科とも合格率100%を目指し対策講座や補講を行ってきたが、緊急事態宣言下の家庭学習期間など、予定通りの学習が十分に行えなかった。就職指導においては、コロナ渦の規制もあり、施設や企業の担当者を招いて実施する job カフェや就職ガイダンスも中止となったが、個々の学生が積極的に活動し全員就職の成果を挙げた。また、日本語講師による留学生指導もコロナ渦の影響を受け、指導期間が短縮された。

② 学生募集

新型コロナウイルス感染症対策を講じてのオープンキャンパスの開催(緊急事態宣言による中止期間有)、高校訪問・治療院訪問・卒業生訪問・会場ガイダンス参加等を実施した。また、大川学園高校への出前授業及び内部進学講座を実施した。令和3年度の入学者数は、柔道整復学科23名、介護福祉学科45名(内留学生20名)、計68名となり前年度を上回った。

③ 運営管理

運営委員会、職員会議、自己評価委員会、学校関係者評価委員会(書面による開催)、教育課程編成委員会(書面による開催)の開催、避難訓練の実施、また年間通じ教職員及び学生へ健康面、安全面等の注意喚起を促した。飯能警察署員を呼んでの交通安全講座は中止となった。卒業式は新型コロナウイルス感染症対策として縮小して校内にて執り行った。

④ 地域貢献

芳愛接骨院・学校施設の開放(緊急事態宣言期間を除く)、高体連柔道大会救護活動への参加、飯能市・飯能警察署・飯能消防署との連携協力を行った。

以上